

# 平成22年度 第3回

## 四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、技術が育成し、社会に還元されることを目的に『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を開催いたします。

記

### 「平成22年度 第3回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成23年3月9日（水） 14：30～16：30

場所：四国地方整備局 13階 1306・1307会議室

#### 【審議事項 概要】

#### 1. 新技術の事後評価（7件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

#### 2. 『平成22年度 四国テーマ設定技術』

『ひび割れ計測システム（KK-080019-V）』（KUMONOS）

平成22年12月3日に、現場で試行した結果を基に評価を行います

#### 3. 『平成23年度 四国テーマ設定技術』

平成23年度 四国テーマ設定技術の募集内容について審議します。

#### <取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成23年3月2日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

施工企画課長補佐

おしづ たかひろ  
鷺津 隆廣  
ふるさわひろゆき  
古澤 弘行

(087-851-8061 内線 3451)

(087-851-8061 内線 3453)

## ～審議技術の概要～

### < 事後評価 >

#### ■ 『エンドレンマット (KK-980089-V)』

エンドレンマットは、PET ボトルからリサイクルされたポリエステルモノフィラメントを素材とした、ヘチマ構造体の排水材である。優れた透水性能で、各種排水工法においてその効果を発揮する。

#### ■ 『マルチスリット側溝 (KK-980098-A)』

スリット集水・高機能舗装対応・自由勾配機能・バリアフリー対応等、様々な機能を集約した側溝。安価にスリット側溝を構築することが出来る。

#### ■ 『環境対応型圧入機 (CB-060028-A)』

本技術は、生分解性油脂類の採用や CO2 排出量低減を達成した環境配慮型の鋼矢板圧入工法です。従来機の適用が広幅鋼矢板までに対して、本機ではハット形鋼矢板への対応を可能としました。本技術の活用により、施工の合理化と環境負荷のさらなる低減が達成されます。

#### ■ 『LS ハイテングレーチング (CB-090008-A)』

LS ハイテングレーチングとはグレーチングの主部材に高張力鋼(60kg 鋼以上)を用いて製作する技術であり、これにより従来品と比べ製品価格を抑えたり重量を軽減することができます。

#### ■ 『都市型側溝シェイプアップスリット (CB-990039-A)』

都市型側溝シェイプアップスリットは、初期コスト(製品価格)が安く水理性に優れているため、メンテナンス(側溝清掃)にもコストや手間をかけない画期的な側溝です。

#### ■ 『緑化パワーマルチ工法 (SK-000011-A)』

本技術は防草シートを利用し防草を行う技術であり、従来は年 2 回程度除草作業で対応していた。本技術の活用で除草作業の軽減、管理コストの削減が期待できる。また、原則固定ピンを使用しないので、シートの隙間がなく防草効果が高く、風などによるピンの飛散がなくなる。

#### ■ 『Eウォール (SK-030002-V)』

本技術は大型ブロック積み擁壁で、従来は現場打ちのもたれ式擁壁で対応していた。本技術の活用により、災害復旧等対応が急を要する場合に活用が期待できる。

### < 試行調査 >

#### ■ 『ひび割れ計測システム (KK-080019-V)』 (KUMONS)

本技術は、光波測量器を用いたひび割れ計測システムで、離れた場所からひび割れを測定できる。本技術を用いることで仮設足場や高所作業車等の仮設備が不要となり安全かつ経済的なひび割れ計測が期待できる。さらに、構造物の形状も測定でき、立面図等を簡単に作成できる。

※ 技術の詳細は、以下の URL にて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

# 平成22年度 第3回 四国地方整備局新技術活用評価委員会

## 議事次第(案)

日時：平成23年3月9日(水) 14:30～16:30

場所：四国地方整備局 13階 1306・1307会議室

### 1. 開会

### 2. 平成22年度 第2回新技術活用評価委員会報告等

### 3. 新技術の事後評価

3-1 エンドレンマット

3-2 マルチスリット側溝

3-3 環境対応型圧入機

3-4 LSハイテングレーチング

3-5 都市型側溝シェイプアップスリット

3-6 緑化パワーマルチ工法

3-7 Eウォール

### 4. 平成22年度 四国テーマ設定技術について

4-1 試行調査結果の検証

ひび割れ計測システム kk-080019-V (KUMONOS)

### 5. 平成23年度 四国テーマ設定技術募集について

### 6. 閉会

# 「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

## 1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

## 2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

### (大 学 6名)

望月 秋利 徳島大学 名誉教授(基礎工学、土質力学)  
吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)  
松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)  
山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)  
高木 方隆 高知工科大学工学部 教授(国土情報処理工学)  
渡邊 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授  
(コンクリート工学)

### (産 業 界 3名)

(社)日本土木工業協会四国支部 技術・公共工事委員会 技術・防災専門委員長  
(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長  
(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

### (研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料地盤研究グループ長  
(独)港湾空港技術研究所 研究企画官

### (整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名